

# 教育振興事業ダイジェスト

公益財団法人日本教育公務員弘済会岐阜支部が行う教育振興事業は、「最終受益者は子どもたち」という理念の下で進められています。前ページ・本ページでは「**学校研究助成事業**」「**へき地・複式学校教育支援事業**」「**奨励金助成事業**」、次ページでは「**奨学事業**」「**特別学校助成事業**」の実践の一部を紹介しています。

## ■ 本巣市立糸貫中学校 学校研究助成

今回、デジタルビデオカメラ等を助成いただき、WEB会議を行う環境整備ができ、コロナ禍で直接お話を伺うことができない遠隔地との交流が可能となりました。

コロナ禍で広島研修に行けなかった3年生は、WEB会議システム「ZOOM」で広島平和記念公園とつなぎ、NPO法人の方と共に平和について考えました。学年で作成した千羽鶴を郵送して、平和記念公園に納めていただきました。WEB会議の中でも心のつながりを実感しました。

1年生は、東京理科大学数学体験館の秋山仁館長から講話を聞きました。本巣市には秋山先生監修の「数学ワンダーランド」があり、生徒は数学に対する興味を深めました。



## ■ 大垣市立荒崎小学校 学校研究助成

小学校低学年では、跳び箱に苦手意識を持つ児童が多くいます。日常生活の中で跳び越えるという経験が少なく、木製の跳び箱が失敗したときの痛みを連想させるためです。

今回ポリエチレン製の柔らかい素材の跳び箱を助成いただき、児童は「ぶつかっても大丈夫」という意識で練習に取り組みました。子ども達が跳ぶ際に難しいと感じるのは、跳び箱を越す時の姿勢と重心移動がイメージしにくいことにあります。今回の跳び箱は、体の重心移動を意識できるように手をつく位置がわかりやすく示されています。手をつく位置に気を付けて練習しました。

今回の取り組みを通して、跳び箱の3段を跳び越えることができた児童は、全体の88%になりました。



## ■ 関市立富野中学校 学校研究助成

今回、HDMIケーブルやヘッドセット、タッチペンを助成していただき、タブレットや電子黒板を活用した授業の充実に取り組んでいます。

英語の授業では、ブレイクアウトルーム機能を利用して、相手を替えながら自分の考えをペア交流するスマールークを行いました。ヘッドセットにより周りの音声の影響を受けることなく、感染症予防にも配慮してペア交流を効果的に行うことができました。

個人追求の学習段階におけるロイロノートの活用では、教師が短時間に生徒の考えを把握し、電子黒板で画面を共有して効果的な全体交流に役立てることができました。



## ■ 白川町立佐見小学校 へき地・複式学校教育支援

今回助成いただいたノートパソコンを活用して、他校との交流会や外部講師によるオンライン講習会を行いました。同じ小規模校で全校が一輪車に取り組んでいる潮見小学校・三和小学校とオンライン交流を行いました。一輪車の練習場面をお互いに見合いながら、感想交流ができました。

国内外で活躍する一輪車パフォーマーの方によるオンライン講習会では、各々が抱えている願いや困り感を意欲的に伝えました。講師からの質問にもしっかりと答え、具体的なアドバイスを受けることができました。講習会後はアドバイスをもとに練習に励み、「できた!」の歓声が運動場のあちこちで聞こえるようになっています。



## ■ 中津川市立川上小学校 へき地・複式学校教育支援

今回、バーが柔らかいハードルを助成いただき、4・5・6年「ハードル走」で活用しています。跳び越える時に膝に当たる恐怖感が和らぎ、子ども達は意欲的に練習することができました。また、ハードルの台数が増えたことで、繰り返し練習する環境も整いました。6年生が下学年に跳び方の見本を見せたり、跳び方を教えるという姿が見られました。

こうした学習の取り組みの成果を是非保護者に見てもらいたいという児童の意見から、10月に延期となった運動会では、「障害ジャングル」というハードル走を取り入れた競技を行いました。



## ■ 下呂市立上原小学校 へき地・複式学校教育支援

本校では児童の多くがバス通学であり、体力の低下が課題でした。そのため、マラソン記録会を行事として位置付け、年間を通して継続的な練習を行い、体力の向上を図っています。

毎週火曜日の業間の時間は「マラソン全校練習タイム」と位置付け、年間を通して練習しています。高学年担当児童は助成いただいたタイマーをグラウンド朝礼台前に設置し、児童一人一人は1周ごとのタイムを意識しながら練習しています。本番を意識した体育の授業では、自己タイムをタイマーで確認して自己ベスト更新に役立てています。



## ■ 岐阜県立山県高等学校 学校研究助成

本校では、学力伸長の取り組みとして類型別学校設定科目での少人数・TT等の指導を行っています。理科の学校設定科目は、2年次に生物実験、3年次に化学実験を設定し、探究的な学びを目指しています。

生物実験では、今回の実験器具の助成により、各自が自分だけの器具を使用して実験をすることができるようになりました。一人で根気よく最後までやりぬくことにより、自己達成感、自己肯定感を養うことができました。

化学実験では、基本的な実験技術を身に付け、安全に正確に実験を行うことを大切にしています。電子天秤を助成いただき、化学反応の量的関係、中和反応等を正確に行うことができるようになりました。



## ■ 岐阜県立大垣南高等学校 学校研究助成

今回タブレットPC用スタイラスペンを助成いただき、MetaMoji等ICTを活用した授業を一層充実させるために授業改善を進めています。

MetaMojiは、教師が生徒の学習状況をリアルタイムに把握できる授業支援アプリです。生徒はノートや学習プリントだけでなく、MetaMojiに展開されたデジタルノートを使っています。生徒が書いたノートはコピー、再編集、クラスの仲間との共有、発表と幅広く活用ができます。スタイラスペンを使うことで、まるで紙に書いているように手書きのノートを残すことができます。

従来のノートや学習プリントなどを使っていた学習は、オンラインでもできるようになっています。



## ■ 岐阜県立西濃高等特別支援学校 学校研究助成

本校の専門教科の一つ「食品コース」では、菓子・パン製造の基礎や専門的な技術、食品衛生に関する知識、コミュニケーションを学んでいます。

3年生は、「お客様を笑顔にする菓子を作ろう」を合言葉に、本校オリジナルマドレーヌを作り、販売を行っています。今回助成いただいたミキサーは、必要な量の生地を均一に手早く混ぜることができ、生徒は使い方を確認しながら丁寧に生地作りを行っています。製造したマドレーヌは、衛生面に気を付けながら空気を抜いて、今回助成の「シーラ」で袋の接着をします。これは大変難しい作業ですが、生徒は何度も練習を重ね、美しい袋詰めができるようになりました。



## ■ 根尾うすすみ応援団 奨励金助成

根尾うすすみ応援団は、根尾谷薄墨桜や根尾一族に関わる新たな活動を創り出し、根尾地域の活性化を目指しています。

地区特産物の根尾米を使用した新たな加工品を企画・ブランド化しようとする根尾中学校には、水田の手配、JA農協や根尾米生産者との連絡調整など、生徒の手による米作りの支援を行いました。根尾米の米粉使用の大判焼き「ねおどら」は11月18日に完成し、市内の大型店舗や道の駅で販売されました。販売開始から1時間ですべて売り切れとなる大好評でした。

令和4年度義務教育学校根尾学園の発足に伴い根尾小学校・中学校が閉校になることから、学校運営協議会をサポートし、11月14日に「根尾ふるさとのつどい」を実施しました。児童生徒・学校職員はオリジナルの応援団Tシャツで参加し、300人で根尾踊りなどで交流を深めました。

